

現行都市マスタープランの中間評価

計画期間の中間年次を迎えるにあたり、計画の進捗管理に関する方針に基づき、計画に掲げた5つの都市づくりの基本目標について、上位計画である「第6次日進市総合計画」で掲げられた基本成果指標を用いて、現状値とともに、各種施策進捗状況を整理します。

都市づくり上の課題 (○強みを伸ばす ●弱みを克服する)	都市づくりの基本目標	主な施策の取組状況	指標の達成状況					
			指標	基準値 2020年度(令和2年度)	現状値 2024年度(令和6年度)	目標値 2025年度(令和7年度)	目標値 2030年度(令和12年度)	状況
<p><b>【都市機能集積の高い都市づくり】</b> ○増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成 ○日常的な生活の支えとなるバランスよく立地した都市機能(生活利便施設)の充実 ○子育て支援ニーズを受け止める施設の充実 ●高齢化の進行等を踏まえ、主要鉄道駅をはじめ公共交通によりアクセスしやすい地区における居住や商業をはじめとした都市機能の集積強化 ●これまでの社会増(転入増)の維持に向け、学生向け住居への入居促進 ●空家や低・未利用地の有効活用及び魅力の向上 ●既成市街地内に多く残る低・未利用地の有効活用</p> <p><b>【力強く発展を続ける都市づくり】</b> ○さらなる従業者の増加に向けた雇用の場の確保、既存産業の拠点強化・充実 ●今後の産業立地の受け皿となる新たな産業用地の形成 ●卒業後の学生等の雇用の場の確保とあわせた居住の場の充実 ●広域交通体系へのアクセス利便性の確保(インターチェンジ等の設置)</p> <p><b>【観光交流・市民交流を促す都市づくり】</b> ○市内に大学が多い等本市ならではの既存ストックや地域資源を活かした交流の拡大 ○新たに立地した大型商業施設を活かした市民交流の場の創出 ●地域資源を有効に使い、地域内外から人を呼び込む場の創出</p> <p><b>【安心して暮らせる都市づくり】</b> ○日常的な生活の支えとなるバランスよく立地した都市機能(生活利便施設)の充実[再] ●高齢化の進行する既成市街地や集落における地域コミュニティの維持・活性化(日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等) ●進行する高齢化社会に対応した鉄道駅へのアクセスを含め、日常生活を支える広域的視点も踏まえた公共交通網の充実 ●都市公園等が不足する地区の解消</p> <p><b>【災害等に対し安全に暮らせる都市づくり】</b> ○地震等の災害時におけるさらなる減災対策 ○防災・減災について想定される事案への事前準備や対応訓練の実施 ○若者世代や転入者等への防災意識や共助力の向上 ●浅田地区等における住工混在地区の解消 ●既成市街地に残る未整備市街地や狭あい道路の改善、低・未利用地の活用等による都市の防災性の強化 ●浸水、土砂等の危険性の高い区域における防災、減災対策の実施及び新たな開発抑制</p>	<p>1 快適性の高い持続可能な都市づくり</p> <p>生活利便施設の充実と誰もがアクセスしやすい中心拠点・鉄道駅周辺の都市機能の活性化により市街地環境の質の向上を目指します。また、都市施設の計画的な維持修繕、長寿命化を行い効率的な都市運営を行い、将来にわたって住みやすい都市づくりを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立地適正化計画の策定</li> <li>赤池駅前地区における再開発事業化検討</li> <li>道路施設等の個別施設計画等の改定、公共施設再編計画策定</li> <li>主要幹線道路の整備促進に関する国及び愛知県への要望活動</li> <li>(都)野方三ツ池線の早期整備に向けた国への交付金要望及び用地買収等</li> <li>くるりんばす実質無料化事業「つつしんシニアパス75」の実施</li> <li>名古屋商科大学との連携協定に基づくスクールバスの一部便における一般客の混乗利用等</li> </ul>	<p>車道の利便性に対する満足度</p> <p>歩道の利便性に対する満足度</p> <p>公共交通の利便性に対する満足度</p> <p>くるりんばすの利便性に対する満足度</p> <p>市内3駅の鉄道乗降客数</p>	37.8%	37.1%	40.0%	42.0%	△
	<p>2 産業活力のある都市づくり</p> <p>スマートインターチェンジの整備等による広域交通体系へのアクセス利便性の確保や既存産業の拠点強化・充実、就業の場となる新たな産業拠点の形成や生産性の高い優良農地等の保全により、時代に合った産業活力を持ち続ける都市づくりを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートインターチェンジ整備に向けた用地取得等及び関係機関協議の実施</li> <li>香久山西部土地区画整理事業地内における商業事業者出店</li> <li>北部地区における大街区の配置等を含めた土地利用の見直しに向け、企業ヒアリングを実施</li> <li>旧日進美化センター跡地での工業用地売却に向けたプロポーザルの実施</li> <li>日進東部企業団地の事業化に向けた愛知県企業庁との調整</li> <li>産業立地促進奨励金等、様々な優遇制度により市内での企業立地を促進</li> <li>道の駅マチテラス日進の開駅</li> <li>地域農業・農地を維持するために地域計画を策定</li> </ul>	<p>大型店舗の立地に対する満足度</p> <p>人に紹介したいと思う観光資源がある市民の割合</p> <p>観光レクリエーション資源・施設における利用者数(観光入込客数)</p> <p>製造品出荷額</p> <p>市内農業産出額</p>	49.3%	46.6%	52.5%	55.0%	△
	<p>3 ふれあいにぎわう都市づくり</p> <p>既存ストックや商業施設、地域振興施設等を活かした多様な市民がふれあいにぎわう市民交流の場の充実や市外の交流人口を呼び込むための拠点の整備等により、高齢化が進行する中で地域を元気づけるとともに、地域コミュニティが維持・活性化され、全ての人の個性が輝いてふれあいが生まれる都市づくりを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業にともなう用途地域変更(香久山西部地区、日進駅西地区、折戸鎌ヶ寿地区)、地区計画策定(日進駅西地区)</li> <li>暫定用途地域の解消(岩崎町新ラ田・北高上ほか地区)</li> <li>暫定用途地域の解消に向けた合意収集(赤池町箕ノ手及び折戸町鎌ヶ寿地区)</li> <li>各土地区画整理事業の支援(赤池箕ノ手地区、香久山西部地区、日進駅西地区、折戸鎌ヶ寿地区)</li> <li>公共施設再編計画及び庁舎建替基本計画の策定</li> </ul>	<p>宅地の供給に対する満足度</p> <p>安心して子育てできる環境であると感じる市民の割合</p> <p>地域が支え合って暮らしていると思う市民の割合</p> <p>生きがいを感じている高齢者の割合</p> <p>年間商品販売額(卸売、小売業)</p> <p>自分の人権が尊重されていると思う市民の割合</p>	22.6%	26.7%	26.1%	28.7%	◎
	63.6%	69.6%	66.0%	70.0%	◎			
	35.7%	39.3%	38.0%	40.0%	◎			
	57.5%	60.7%	59.0%	60.0%	◎			
	1,488億円 2016年度(平成28年度)	1,823億円 2021年度(令和3年度)	1,623億円	1,698億円	◎			
	57.4%	68.2%	60.0%	65.0%	◎			

都市づくり上の課題 (○強みを伸ばす ●弱みを克服する)	都市づくりの基本目標	主な施策の取組状況	指標の達成状況					
			指標	基準値 2020年度(令和2年度)	現状値 2024年度(令和6年度)	目標値 2025年度(令和7年度)	目標値 2030年度(令和12年度)	状況
<b>【都市の個性を発揮する景観都市づくり】</b> ○景観資源として農地や山林の有効活用 ○東部丘陵地等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全 ●既成市街地を取り巻く農地や山林の保全 ●浅田地区等における住工混在地区の解消[再] <b>【環境負荷の小さい都市づくり】</b> ○市街地を囲んだ豊かな水辺環境、自然環境の保全 ○河川を活かした水と緑のネットワークの形成 ○景観資源として農地や山林の有効活用[再] ○東部丘陵地等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全[再] ○まとまった緑地の保全、創出による環境負荷の低減 ●適度に自動車に依存しなくても暮らしやすい都市構造や生活圏への再構築 ●CO <sub>2</sub> 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からも利便性の高い公共交通網の維持・形成 <b>【都市運営コスト削減の都市づくり】</b> ○空家や低・未利用地の有効活用等による土地の価値の向上[再] ●老朽化するインフラ施設に対する効率的な修繕・更新の実施、長寿命化による更新コストの削減 ●インフラ施設の維持管理に対する住民や民間事業者等の協働化の促進	4 安全安心な都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>狭あい道路の整備に関する補助金制度を啓発し、制度利用を促進</li> <li>空家の実態調査や除却支援などの対策の推進</li> <li>防災倉庫の整備や備蓄品の充実、防災情報の市民への周知</li> <li>木造無料耐震診断を始めとする住宅の耐震化に向けた建築物の安全確保に関する施策の展開</li> <li>各区からの要望及び通学路安全プログラムに基づき、対策が必要な道路について順次整備</li> </ul>	災害対策に対する満足度	28.5%	33.2%	38.0%	48.0%	○
	交通安全に対する満足度	35.5%	40.4%	39.0%	42.5%	◎		
	空家対策に対する満足度	9.3%	11.4%	11.1%	12.9%	◎		
	市内交通事故(人身)発生件数(人口1,000人あたり)	3.7件 2019年度(令和元年度)	2.7件 2023年度(令和5年度)	3.2件	2.8件	◎		
	住宅の耐震化率	88.6% 2019年度(令和元年度)	90.2% 2023年度(令和5年度)	95.0%	97.0%	○		
	5 環境に優しい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>北高上緑地の里山体験、里山保全実践講座の実施</li> <li>ハンギングバスケット及び寄せ植え教室の実施</li> <li>岩藤新池2期地区の整備に向けた県との協議の継続</li> <li>市民農園やアグリスクールなどを通じた農地の多様な利活用の促進</li> <li>公園の再整備に向けた整備方針の検討と活用環境の向上</li> <li>田園フロンティアパーク構想に基づく農業と観光の連携による土地利用の誘導</li> <li>日進駅西地区における地区計画において、民有地における緑化率を規定</li> </ul>	田畑や森林等の景観に対する満足度	55.3%	55.5%	58.3%	61.3%	○
	緑化の推進に対する満足度	42.2%	41.9%	45.1%	48.1%	△		
	住まいの周辺の居住環境に魅力を感じると考えている市民の割合	60.2%	61.4%	63.6%	66.1%	○		
	自宅周辺の公園をよく利用している市民の割合	26.1%	26.7%	27.7%	29.3%	◎		
	身近なところに水に親しめる場所があると思う市民の割合	33.5%	26.4%	35.6%	37.8%	△		

◎：目標値（令和7年度）を達成している指標  
 ○：基準値より改善傾向にある指標  
 △：基準値より改善が必要である指標

施策と指標の達成状況及び市民アンケートによる市民意見を踏まえ、中間評価し、新たな課題を整理します。

都市づくりの基本目標	市民意見(よくなってきていると感じること)	中間評価	中間評価を踏まえた新たな課題・継続課題
1 快適性の高い持続可能な都市づくり	「車道の利便性の向上」を評価する回答が最も高く、次いで「鉄道乗降客数の増加」が高い。	鉄道駅周辺の整備や幹線道路の改良が進み、都市の利便性は一定程度向上している。歩車道や鉄道について、目標値に向けた取り組みは必要であるが、特に車道については、市民意見において一定の評価を得ることができており、基幹的な交通インフラの整備効果が表れている。公共交通については、相対的に改善傾向にあるものの、引き続き身近な移動手段への対応が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>車道の整備、公共交通ネットワークの利便性向上</li> <li>歩行者や高齢者にも配慮した歩道空間や駅前環境の整備</li> <li>通勤・通学など日常利用に対応した拠点整備の推進</li> </ul>
2 産業活力のある都市づくり	「大型店舗の立地」を評価する回答が最も高く、次いで「その他」、「観光資源の利用」が高い。	スマートインターチェンジの整備や商業施設の立地支援、産業用地の供給に向けた取り組みが進み、産業基盤の整備は概ね順調に推移している。目標値に向けた取り組みは必要であるが、市民意見において大型店舗の利便性について一定の評価は得ることができている。一方で、観光や農業など他の分野への体感的な評価は限定的であり、多様な産業の魅力発信が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場産業や観光資源の魅力を伝える情報発信の強化</li> <li>農業の担い手確保や土地利用の高度化による農地の維持</li> <li>雇用創出や地域内経済循環につながる産業振興の展開</li> </ul>
3 ふれあいにぎわう都市づくり	「安心して子育てができる環境づくりの促進」を評価する回答が最も高く、次いで「宅地供給の充実」が高い。	子育てや住環境に関する取り組みが進み、市民の体感としても一定の成果が認識されている。土地区画整理や地区計画による住宅地の整備が進展する一方で、高齢者や多様な世代が交流できる仕組みや居場所づくりが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代・単身世帯・高齢者など多様な世帯に対応する住環境の形成</li> <li>地域コミュニティの継承と担い手支援による地域力の維持</li> </ul>
4 安全安心な都市づくり	「交通安全対策の促進」を評価する回答が最も高く、次いで「災害対策の促進」が高い。	狭あい道路の改善、防災備蓄の拡充、空家対策の推進など、安全・安心の向上に向けた施策が着実に実施されている。特に交通安全や災害対策への市民の評価は高いが、空家の活用や地域防災の主体形成など、地域と連携した取り組みが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>空家の利活用や再生を通じた地域の安全性と活力の確保</li> <li>防災教育や訓練を通じた住民参加型の防災体制の強化</li> <li>地域の交通安全に配慮した道路環境の整備と啓発活動の充実</li> </ul>
5 環境に優しい都市づくり	「自宅周辺の居住環境の魅力向上」を評価する回答が最も高く、次いで「田畑や森林等の景観の維持・保全」が高い。	森林や農地の保全、公園整備など、自然環境との調和に配慮した施策が展開されており、市民も居住環境や景観に高い関心と評価を示している。日常の身近な緑や水辺空間に関する施策は一定の成果をあげているが、さらなる魅力向上や市民参加の促進が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地・水辺空間の質的向上とネットワーク化の推進</li> <li>公園や農空間など、地域の自然資源を活かした多目的活用</li> <li>環境保全への市民参加の促進と継続的な啓発活動の展開</li> </ul>